

2020年度 学校評価のまとめ

2021.5.30

本園の【教育目標】の実現を目指し〔教育方針〕を実行するために、2020年度10項目の重点目標を定め、その達成のために具体的方策としてそれぞれの項目に実施計画を立てその遂行に努力した。

【教育目標】

1. 負けない心の太陽の子（つよく）
～自分の弱い心に負けないことが本当の強さであることを知る～
2. お友だちを大切に作る太陽の子（たたく）
～互いを尊重し、違いを認め合う心に正しい行動の源泉があることを学ぶ～
3. 明るく朗らかな太陽の子（のびのびと）
～主体的な遊びの中で生きる力を身につけていく～

〔教育方針〕

1. 創立者の願いと期待を伝える（教育目標1, 2, 3）
2. 一人一人の人格を尊重し、寄り添い続ける（教育目標1, 2）
3. コミュニケーション能力を養う（教育目標2, 3）
4. 自他共に大切に作る心を育む（教育目標1, 2, 3）
5. 日常生活や遊びの中で、社会性を高める（教育目標2, 3）

◇教育活動・実践における重点10項目

「*」はコロナ禍で実践が困難であった項目

〔I〕 創価教育「最初の門」に相応しい3年保育内容の充実

- | | |
|--|-----|
| 1. 学園3大記念週間・3学期「ありがとう週間」の取り組みによる心の育成 | 4.8 |
| 2. 創立者著作の創作童話をオペレッタ・読み聞かせ等、学年に応じて保育実践に展開 | 3.6 |
| 3. モットー、3つの指針、入園メッセージを学年に応じて保育実践に展開 | 3.8 |

〔見解〕 縮小された「未来っ子まつり」の演目からオペレッタが外れた。次年度も行事の精選から検討事項の対象となると思われる。例年になく、入園メッセージを教育課程や日々の保育に深化定着させる取り組みへの評価も高いとは言えない。今年度はコロナ禍の影響も否めないが、「遊び中心」の保育を作り上げる中であっても創価教育の根幹を成す保育内容の再構築は急がれる。

〔II〕 未来を創る教育課程（カリキュラムマネジメント）の推進

- | | |
|---|-----|
| 1. 新入園年中児と進級年中児へのきめ細やかな保育実践を積み重ねる ～両児の関わりを軸に～ | 4.4 |
| 2. 卒園までに育てほしい「10の姿」を育む保育実践～心の根っこを育む大切な経験を考察～ | 4.2 |
| 3. 「子どもの主体的な遊びや活動を通しての学び」を育む保育実践を探究 | 4.3 |
| 4. 共通時間帯・なかよしタイム（縦割り・学年タイム）の実践的財産を共有し積み上げる | 4.2 |
| 5. 各種行事再編成と現行の保育内容の精選を推進 | 4.2 |

〔見解〕 限られた条件の中で知恵を出し合い、よりよい保育を実現してきた一年だったと言ってよい。遊び中心の保育という意識も定着してきた。新年度は新園舎完成により、2学期から環境が大きく変化することになる。予想される範囲で対応の準備を進めながら、新園舎生活に相応しいカリキュラム構築が進む一年にしていきたい。

〔Ⅲ〕 世界に開かれた心を育む幼児教育の充実

1. 海外幼稚園・姉妹校交流・創大生創価幼稚園訪問団との交流の充実	3.6
2. グローバルタイムの充実（海外からの来園者との交流）	3.5
3. 専門講師によるインターナショナルタイムと日常保育の連動 ～挨拶の言葉を軸に～	3.8
*4. 楽器を通じた情操教育の更なる充実 ～学年重点楽器と積み上げの検討を～	*
5. 体操教室を軸に年間を通じた基礎的な体力向上の取組み推進 ～重点取り組みの設定～	3.9
*6. 食育指導の充実（保育教材・キャラクターを活かし）	*
7. 自然環境教育の推進（池田自然広場・園庭の植栽・ど根性ひまわりを通して）	4.1
8. 伸びやかな絵画制作と創造性育む制作活動（魔法の砂等、素材の工夫）の推進	4.1

〔見解〕 コロナ禍の影響を大きく受けた項目が多い。状況の変化によってできるものから再開していきたい。グローバルタイムは係のさらなるリーダーシップで充実させていきたい。インターナショナルタイムと体操教室の評価が下がっていることの検証もしていきたい。

〔Ⅳ〕 豊かな心を育む絵本教育の充実

1. 絵本環境の充実	4.1
2. 「豊かな心を育む物語・絵本から広がる保育」の深化と具体事例を積み重ねる	3.8
3. 創立者の創作童話や創作物語「ざくろの詩」の読み聞かせや総合的展開を各学年で充実	3.5

〔見解〕 仮園舎で十分な絵本教育の環境を整えるには限界があったが、保育室での絵本読み聞かせは十分にできている。新園舎では理想的な絵本環境の実現と絵本教育の実践が可能となる。良書の選定・購入は更に推進していきたい。

〔Ⅴ〕 「安心・安全」教育・施策の充実

1. 通園バス無事故運行と「れんらくアプリ」の更なる充実	4.0
2. 園児バス乗車時想定訓練の充実（バス事故・車内嘔吐等への教員実地訓練）	3.9
3. 園舎内外・通園バスにおける冬季安全策の充実 ～バス運転手・警備員との連携強化～	4.0
4. 自然災害や防犯を想定した総合的な防災安全計画・防災教育、机上訓練の充実	4.1
5. 健やかな心身を育成する屋内遊具の充実（冬季を軸に）・年齢に即した屋外遊具安全性の向上	4.1

〔見解〕 バス事故防止に関しては、具体的な要望を年度末にバス会社に行っている。幼稚園としてのバス運行時の安全対策もさらに徹底していきたい。避難訓練の仕方は新園舎に合わせた内容になってくる。新しい計画立案をしていきたい。

〔Ⅵ〕 寄り添い伸ばす個別支援教育の充実

1. 家庭訪問・個人面談・子育て相談等で保護者との共育推進 ～就学前相談の充実～	4.2
2. シェアタイムやケースカンファレンスを軸にした情報・目標共有によりチームとしての育成推進	4.3
3. 訪問支援員を軸にしたデイケア・専門機関（医療機関等）・就学先への円滑な連携	4.1
4. 特別支援研修会への派遣と研鑽成果の園内共有の推進	4.1

〔見解〕 個別支援の対応は保育者の重要なスキルの一つとなっている。今後はインクルーシブ教育の研修をしながら、本園での個別対応のあり方を確認していきたい。関係機関との連携など幼稚園としての対応がよりスムーズになるよう、改善点があれば善処したい。サポートシートや就学相談用資料の作成などでは、できる限り担任の負担を軽減していきたい。シェアタイムは有効に機能している。

〔Ⅶ〕 就学連携・卒園生支援の充実

1. 幼保小連携推進協議会・就学先・各種デイケア機関を軸とした就学連携の充実	4.1
--	-----

2. 就学前の「学びの姿」を育成する教員研修と保育実践の積み重ね	4.0
*3. 東西創価小学校への教員研修で、就学時子ども像を多角的に研鑽	*
*4. 就学前に家庭で大切なことを学び合う保護者講座の開催	*
*5. 卒園生大会の充実（小1 おとぎ会の充実、来園機会の充実）	*
*6. 学園・創価大の案内と進学推進 ～創大学園ガイダンス・きら星合唱団との連携～	*

〔見解〕 残念ではあるが、ここもコロナ禍の影響を大きく受けた項目である。状況に応じ、でき得る範囲で推進していきたい。再開するに当たっては社会的理解を得られることを前提に総合的に判断し、実施方法を決めていきたい。

〔Ⅷ〕 豊かな幼児期を支える子育て支援の充実

*1. 就園前教室ニコニコひろばの充実	*
2. 延長保育「ひつじっこクラブ」の運用充実（人数枠拡充の検討、より安定した受入システム）	4.5
3. 就学相談・幼児教育・子育て相談の推進（園長・教務主任）	4.3

〔見解〕 3年保育の定着に伴って、ニコニコ広場の対象年齢の検討が必要と考える。ひつじっこクラブの時間延長は保護者からの要望でもあり、人の配置も含め検討していきたい。子育て相談は保護者との良好な関係づくりにも役立っている。

〔Ⅸ〕 園児募集を推進する広報活動の充実

1. 見学会・説明会の充実 ～広報活動充実と入園案内との連動を軸に～	4.6
*2. 地域開催の「家庭教育懇談会」への協力	*
*3. 学期開始前（3月）の園児追加募集の適正実施	*
*4. 地域の幼児教育に貢献する諸施策を推進 ～みらいっこのびのびランドの推進協力～	*

〔見解〕 ここも評価できない項目の多い部分であった。見学会・説明会はオンラインで開催することができた。家庭教育懇談会はすでに進んでいる地域もあり、要請があれば協力していきたい。のびのびランドの開催も未定だが、要請に応じていきたい。

〔Ⅹ〕 未来社会担う幼児育成に相応しい教育環境整備をプランニング

1. 教育目標実現のためのきめ細やかな協議検討と「保育の柱」の成文化	4.3
2. 仮園舎時代のアイデア溢れる充実した環境作り	4.5
3. 新園舎の環境を生かした新しい遊び文化の計画	4.3

〔見解〕 厳しい状況の中で、アイデアを出し合いよりよい保育を目指して実行し続けた一年間であった。仮園舎から新園舎へ環境が大きく変化するが、できる限りの準備をして、新しい創価幼稚園の保育の実現のために全教職員で協力していきたい。そのためにも日常の保育と研修の積み重ねによって、教員一人ひとりのスキルアップが望まれる。

◆各項目5段階評定の目安

- A（5）…取り組みが十分に進んだ／十分な取り組みが出来た
- B（4）…取り組みがある程度進んだ／ある程度しっかり取り組めた
- C（3）…取り組みが少しは進んだ／取り組みが進んだ部分もあった
- D（2）…進んだ取り組みもあれば後退したものもある
- E（1）…取り組みが後退した／これまでに比べて取り組みが出来なかった

◆園内評価実施にあたって

- 1) 上記の各項目評定は5段階とし、記述評価と共に全教職員で実施した。
- 2) 自己評価にあたっては、2月に全保護者を対象としたアンケートを実施し、保育の重点や子育て支援等についてご意見を伺い、園内評価委員会にて、課題と今後への取り組みに反映させた。

◆第三者評価委員の皆様からの評価

2019年はコロナ禍で開催できなかったが、今年度は夏以降に開催予定。弁護士・公立小学校管理職経験者・地域民生児童委員の皆様より講評、助言を頂いていく。

◆学校関係者評価委員の皆様からの評価

保護者・守る会・卒園生それぞれの立場から、本園に対する過大な感謝との言葉をいただいた。コロナ禍によって行事中心から遊び中心の保育への転換が加速されたと感じるとも。これからも発展し続ける創価幼稚園の使命の大きさに期待を寄せられていた。

◆財務状況

5月度評議員会・理事会により、最終、適正であると認めて頂いた。